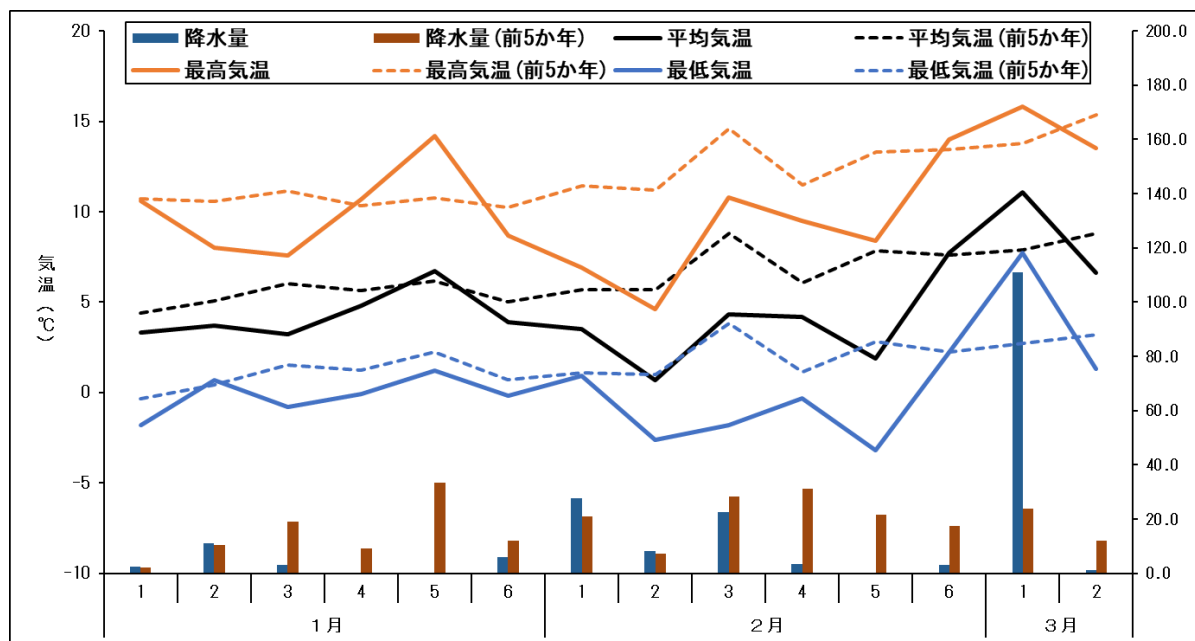


令和7年お茶づくり技術情報 (No.2)

2025年3月17日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) これまでの気象 (2025年1~3月上旬、嬉野市)



- (1) 平均気温は、前5か年と比較して1月第5半旬および3月第1半旬を除き全体的に低く推移した。特に、2月25日は最低気温 -4.9°C の冷え込みとなった。
- (2) 降水量は、1月は22.5 mm (前5か年比26%)、2月は64.5 mm (同51%)であった。3月は第一半旬に多量の降雨があり、10日時点で112.0 mm (同312%)である。

2) 新芽生育



写真1「さえみどり」
2024年3月14日撮影(秋整枝10/19)



写真2「さえみどり」
2025年3月11日撮影(秋整枝11/8)

- (1) 茶業試験場内の「さえみどり」(慣行栽培園)では秋整枝を遅らせたため、3月11日時点で新芽生育は昨年よりも遅い。(参考:昨年の「さえみどり」は3月27日で萌芽した。)

3) 今後の気象の見通し

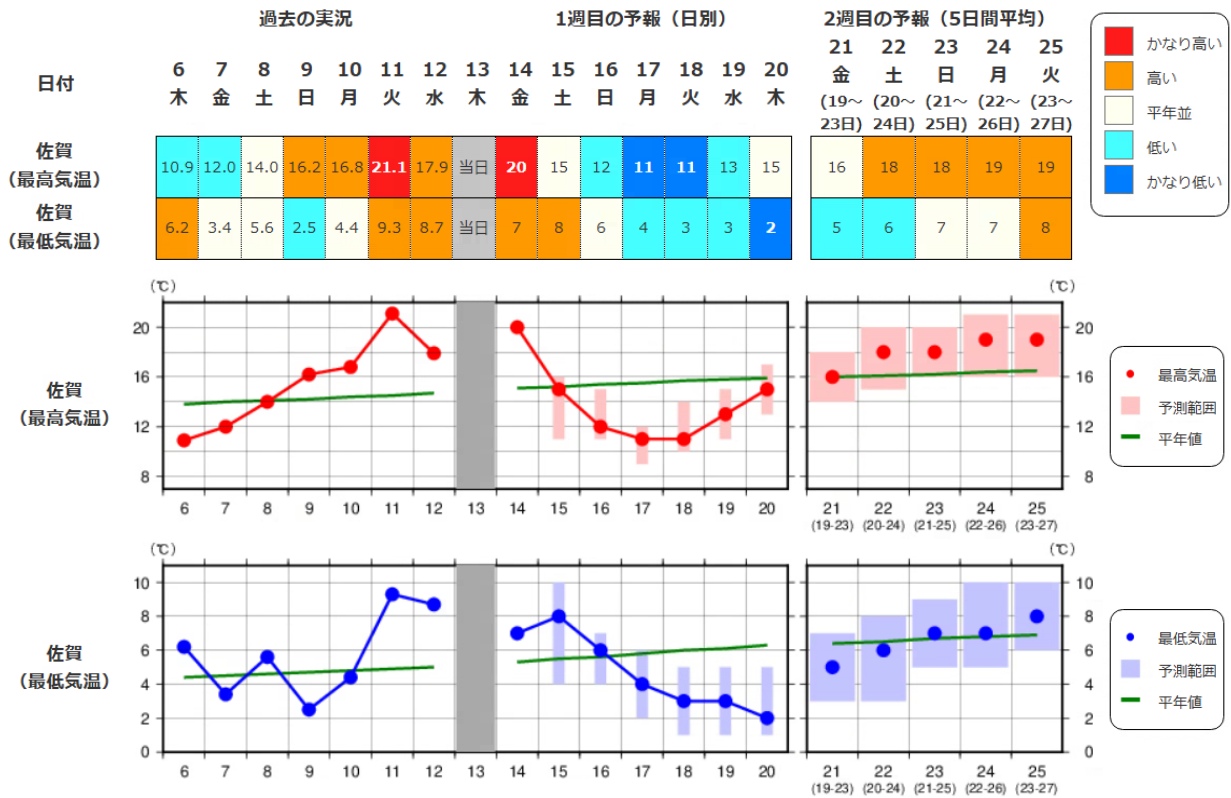
■ 1か月予報 (気象庁、2025年3月13日発表)

		1週目 3/15~3/21	2週目 3/22~3/28	3~4週目 3/29~4/11
天候		天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
九州北部地方 (山口県含む)		低70 並20 高10% 低い 見込み	低20 並30 高50% 高い 見込み	低30 並30 高40% ほぼ平年並 の見込み

(1) 向こう1カ月の気温について、1週目は寒気の影響を受けやすいため気温がかなり低い見込みであるが、2週目は暖かい空気が流れ込みやすいため気温が高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいと予想される。

(2) 向こう1カ月の降水量、日照時間は、平年並の見込み。

■ 2週間予報 (気象庁、2025年3月13日更新)



今後の生育予測や被覆開始時期の調整のため、気象庁の予報サイトを活用しましょう！



1か月予報 (九州北部)



2週間予報 (佐賀県)

2. 今後の管理

1) 土壌・肥料

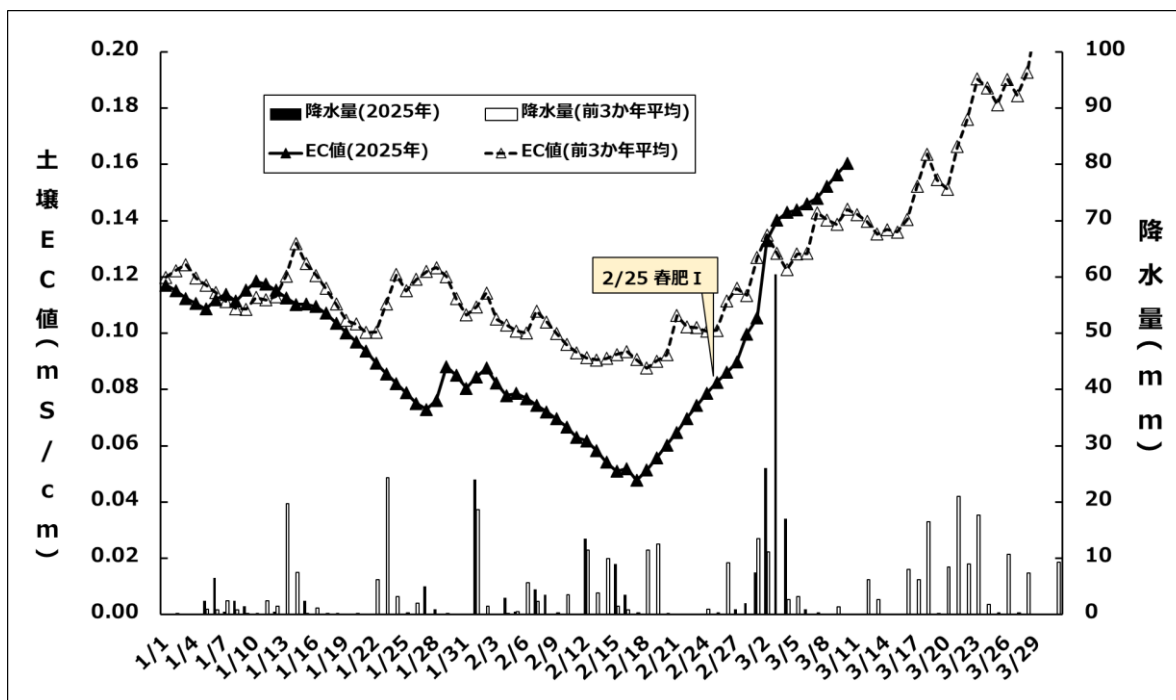


図 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注) 雨落ち部深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値をもとに換算した値を示す

- (1) 土壌 EC 値は、2 月 25 日に春肥 I を施肥し、その後の降雨によって、前 3 か年並まで上昇している。

3. 一番茶へ向けた製茶工場の準備

- 1) 一番茶製造が万全の態勢で迎えられるよう、製茶機械は早めに動作確認や点検を行う。試運転は3月中に実施することが望ましい。繁忙期に故障や事故の発生がないよう、ベルトやネジの緩みをチェックし、機械やコンベアの動作を確認する。粗揉機や中揉機については、葉浚い隙間、揉み手バネ圧、揉み手隙間を必ず確認して調整を行う。

揉み手・葉浚い調整基準

	粗揉機		中揉機	
	若芽	普通芽	若芽	普通芽
揉み手バネ圧	3~3.5 kg	3.5~4 kg	5~7 kg	4~6 kg
葉浚い隙間	8mm	10mm	—	—

- 2) 食品工場としての意識を持ち、工場内や製茶ラインは入念に掃除する。生葉の搬入口から最終工程まで異物混入のリスクがないか再度点検を行う。また、工場内外の点検補修や網戸の修理、工場周辺や排水溝の清掃なども、茶のシーズンが本格化する前に完了することが望ましい。
- 3) 今年の一番茶製造にあたり、去年の製造記録や茶連注記を振り返って、改善点の確認やシミュレーションを行っておく。